

令和2年度 天理幼稚園 学校評価 <教職員用>

令和2年度 天理幼稚園運営計画			A：よくできている B：ほぼできている C：あまりできていない D：ほとんどできていない	
	重点目標	評価項目	評価	成果と課題
教育目標・教育計画	幼稚園の教育方針、教育目標を明らかにし、望ましい幼児の姿を明確にする	1 教育目標及び重点目標を全教職員が理解している	A	○今年度の重点目標を踏まえ教育課程を見直し作成し、指導にあたった。また、天理市幼稚園教育理解推進事業研究会に参加し、研究協議主題である「幼稚園教育においてはぐみたい資質・能力を踏まえた教育課程に基づく指導計画の作成や指導実践について」を研究テーマとして幼児の遊びを記録し、その記録をもとに教師間でカンファレンスを行い幼児理解に努めた。そして、幼児の実態に応じた具体的な環境構成について教員間で話し合い共通理解をして環境を再構成した。 ○月末の学年会議でその月の指導計画について振り返り、反省・課題・改善点を翌月の指導計画に生かすことができた。また、個々の幼児の課題や手立てについて話し合う機会をもち共通理解に努めるとともに援助の方向性を探った。 ○新型コロナウイルスの影響で休園や感染対策で実施できない行事や活動があったが、コロナ禍でも実施できる活動の見直しを行い、発達に必要な活動を積み重ねられるよう努めた。次年度もこれまで通りの行事や活動ができない状況が続くことが予想されるので柔軟な対応をしていきたい。
		2 教育課程は教育要領を踏まえ、園長を中心とし教職員と協力し合って編成している	A	
		3 年間の指導計画について各学年及び園としてよく話し合いをし、実施している	A	
		4 教育目標の実現を目指し、信条教育の指導方針を設定している	A	
		5 幼児の実態に合わせた教育内容を精選している	A	
		6 今年度の重点目標を理解し達成できるよう努力している	A	
教育内容	全て親神様のお恵みの中で生かされていることを知り感謝の気持ちをもつ	7 私達の身体は親神様からお借りしていることを知り、元気であることを喜び、感謝する心を育てている	A	○新型コロナウイルスが流行する中で、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなり、改めざるを得ない状況となった。また、毎日元気に幼稚園に登園できることに感謝の気持ちももてるよう子ども達にも伝えていく機会となった。 ○「ちば定め」について教師自身が勉強して幼児向けに脚本化し、ペープサートを作成して月次祭行事に披露した。また、休園中に教員が視覚教材を作り替え録音し直すリニューアルを行った。 ○さまざまな材料用具に触れる機会に、材料用具の使い方について伝えたり、全てのものは親神様のお働きによってお借りしているものであることを伝えたりするとともに、幼児に考える機会を与え、物を大切にすることを伝える機会がもてるようにしてきた。これからも機会を逃さず、物を大切にすることを伝える機会を身につくように伝えていきたい。
		8 一手一つに助け合う心を育てている	A	
		9 自然や物を大切にすることを育てている	B	
	主体的に環境に関わり、一人ひとりが自己発揮し、友達と力を合わせて園生活を楽しむ	10 体を動かす楽しさを味わえるような遊びを計画し、その環境を構成している	A	
		11 共通の目的に向かって友達と協力して遊びを進めていけるよう援助している	A	
		12 幼児がさまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるよう環境を整えている	A	
13 人の話を聞き言葉による伝え合いができるよう援助する		A		
研究・研修	園内研修を計画的に実施すると共に園外研修に積極的に参加し、教職員の資質を高める	14 外部講師による講義や公開保育の実施など計画的な園内研修を行い教師の資質向上に努めている	A	○奈良県障害者総合支援センターより作業療法士を講師に招き、幼稚園でできる感覚統合遊びについて研修し、実践に生かすことができた。また、昨年からの課題である「幼児期の発達や学びの特質を踏まえた記録」と「幼児教育においてはぐみたい資質・能力を踏まえた教育課程に基づく指導計画の作成や指導実践」について県教育研究所より講師を招いて研修を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で研修会への参加が難しいことがあるが、計画的な園内研修の実施に努め、教員の資質向上に努めていきたい。
		15 幼児期の発達や学びの特質を踏まえた記録の在り方について研究している	B	
特別支援教育	配慮を必要とする子の実態を理解し、その子に応じた指導、援助を行う	16 配慮を要する幼児の課題と支援方法について保護者、専門機関、小学校と連携を深め支援にあたっている	A	○支援を要する子の保護者の悩みや願いを聴き、療育施設や専門機関に積極的に同行し、連携を図ることで個々の課題を明確にもち支援にあたることができた。今年は盲学校へ相談に行き、弱視の幼児についての支援の方法や盲学校での教育について研修し、保護者に情報を伝えることができた。今後も支援を要する幼児の思いに寄り添いながらも経験すべき活動を積み重ねられるよう研究を深めていきたい。
組織	組織の中の一人としての自覚を持つと共に教職員間の協力体制を築く	17 担任が抱える問題を組織的に取り組む体制を整えている	B	○今年度教会本部よりひのきしん者を配属していただけたことにより要支援児に丁寧にかかわることができた。 ○学年会議にそれぞれのクラスの実態についての報告を受け、課題や改善点を明確にできるよう忌憚のない意見を出し合うことができた。各担任が抱える悩みや課題についてチームで考え合い、組織的に取り組めるような同僚性の向上に努めていきたい。
		18 各分掌、各学年の連携を十分にしている	A	
		19 全園児について共通理解をもち、発達に応じたきめ細かい指導、援助をしている	A	
保護者との連携	保護者との連携を大切に、信頼関係を築く	20 教育方針、目標、計画などを保護者に明示している	A	○さまざまな保護者の悩みや心配事を察知し、積極的に教員から声をかけたり相談に応じたりしてきた。気になる幼児の様子について教員の方から声をかけたときには改めて相談の日を設けることができるが、保護者の方の悩みをじっくりと聞く時間をもつことが難しい。保護者側にする『先生方はいつも忙しい』という印象があるとう。今年は特に新型コロナウイルス感染症の影響で参観日や保護者参加行事が実施できなかった。引き続き、密集を避ける必要が考えられるので、分散で参加できるような行事の在り方を工夫していきたい。
		21 園の教育活動や園全般の情報を保護者へ提供している	B	
		22 子育ての悩みや相談を受けられるような場や時間を確保している	A	
		23 保護者からの要望や苦情に適切に対応している	A	
安全管理・保健	幼児の安全や保健・衛生管理について、体制やシステムを周知徹底する	24 安全・健康な生活に必要な習慣や態度の育成をしている	A	○年度初めに安全教育・防災に関する年間計画、危機管理マニュアルを教職員間で共通理解する機会をもった。 ○新型コロナウイルス感染対策として健康観察票の確認、登園時の検温、アルコールによる手指消毒、活動後の手洗い、マスク着用、マスクを外した時の取り扱い指導、制作時・食事時にはパーテーションを置く飛沫防止策、ソーシャルディスタンスの指導、保育後の保育室・机・椅子・遊具・玩具・トイレ・バス内の消毒などに努めた。また、健康管理室看護師を招き年長児を対象に手洗い教室を開いたことにより、丁寧な手洗いを意識して実行できるようになった。今後も感染予防に努めるとともに、保護者の方にも保健だよりなどで情報提供していきたい。 ○新型コロナウイルスの影響で天理警察署に出向していただくことが難しかったが、教員が教材研究をし、交通安全教室・被害防止教室を園内で行い、今できる安全教育の実施に努めた。
		25 衛生指導の徹底と保護者に保健や衛生の情報を提供している	A	
		26 安全教育・防災に関する年間計画、危機管理マニュアルの共通理解を図っている	A	
施設・設備	施設・設備の環境整備、整理整頓を行う	27 園舎、園庭、保育室の環境整備、整理整頓している	A	○園舎、園庭、保育室の設備について日常的に安全点検をするとともに、学期に1度安全チェックリストに沿って点検を行い、修理修繕の必要な箇所を園長に報告した。今年度は、画板・作品棚の修繕、玄関前のコンクリート修理、園児通門の鍵の取り替え、固定遊具下の人工芝の張替え、物置の扉修理、保育室入り口のサッシの修理、冷暖房設備、手洗い場に給湯器設置など行った。施設、設備の老朽化が進み、あらゆるところで修理修繕の必要な箇所があるため、今後も日常的に安全点検に努め、幼児が安心して安全に園生活を楽しむことができるよう対応に努めたい。
		28 施設、設備について日常的に安全点検をしている	B	
		29 省エネルギーへの配慮を心がけている	A	
		30 備品や教材、用具、材料を適切に活用している	A	